



## 2024年2月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年10月12日

上場会社名 株式会社 ラピーヌ  
コード番号 8143 URL <https://www.lapine.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長  
問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役社長  
四半期報告書提出予定日 2023年10月13日  
配当支払開始予定日  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
TEL 03-6635-1847

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年2月期第2四半期の連結業績(2023年3月1日～2023年8月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第2四半期	1,221	32.2	166		155		154	
2023年2月期第2四半期	1,801		193		297	244.8	292	264.5

(注) 包括利益 2024年2月期第2四半期 128百万円 ( %) 2023年2月期第2四半期 310百万円 (509.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第2四半期	65.23	
2023年2月期第2四半期	123.54	123.17

(注) 2023年2月期第1四半期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)を適用しております。このため、当該基準適用前の前期の売上高実績値に対する増減率は記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	%	%
2024年2月期第2四半期	3,650		1,020		28.0	
2023年2月期	4,024		1,155		28.6	

(参考) 自己資本 2024年2月期第2四半期 1,020百万円 2023年2月期 1,149百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期		0.00		0.00	0.00
2024年2月期		0.00			
2024年2月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年2月期の連結業績予想(2023年3月1日～2024年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,500	24.2	250	61.5	0		0		0.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年2月期2Q	2,567,064 株	2023年2月期	2,567,064 株
期末自己株式数	2024年2月期2Q	202,822 株	2023年2月期	202,759 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年2月期2Q	2,364,279 株	2023年2月期2Q	2,364,357 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

また、1株当たり情報の端数処理方法につきましては、有価証券報告書、四半期報告書に合わせて、切捨てとしております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	10
(重要な後発事象) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が2023年5月に5類へ移行されるなどもあり、国民の行動制限等が緩和され緩やかながら回復の兆しが見られ始めた一方で、ロシア・ウクライナ問題の長期化やエネルギー・原材料価格の高騰、円安長期化、各地で頻発する異常気象などの影響により、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

当アパレル業界でも、行動制限の緩和による、旅行やイベントなど外出関連機会の回復傾向からアパレル製品の市場環境は改善傾向にあるものの、中でもミセス層を中心として生活防衛意識が高く、衣料品への消費マインドの回復は鈍さが続くなど、依然として厳しい状況が続いております。

このような状況のもと当社グループは、百貨店に出店するアパレル店舗の有るべき姿を求めて、業務改革に取り組んでおります。消費者にお買い求めやすい価格帯商品の展開、新規顧客の開拓を中心とした改革に加え、専門店卸販路の回復、拡大にも注力してまいりました。

また、原材料価格の上昇圧力が高まる中、製造・仕入のコントロール、製造原価低減の工夫、固定経費及び変動経費の削減を継続し、適正利益の確保に努め、近年の厳しい経営環境に対処してまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は12億21百万円（前年同期比32.2%減）となりました。損益面におきましては、売上原価の低減に努めるとともに、販売費及び一般管理費を抑制しました結果、営業損益は1億66百万円の損失（前年同期は1億93百万円の損失）となりました。経常損益は、雇用調整助成金収入が無かったこともあり、1億55百万円の損失（前年同期は2億97百万円の利益）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純損益は1億54百万円の損失（前年同期は2億92百万円の利益）となりました。

セグメント別の経営成績の概要は次のとおりであります。

#### <卸売事業>

百貨店販売事業においては、若年層における顧客離れや既存顧客の高齢化の進行と、衣料に対する需要が減退する市場環境に対応するために、消費者がお買い求めやすい商品価格に設定して、若い世代の客層を取り込み、売上を回復することに取り組んでまいりました。

そのために、当社の商品企画や発注の体制を改め、自社の企画力や技術力およびマーケティング力を向上させるための社員教育を積極的に実行しております。

従来の品質を保ちながら、仕入原価率を抑制するために、少量多品種に偏った生産方針の見直しを行い、市場に適した価格での売上回復および粗利の確保により、今後の事業の継続性を改善する取り組みを進めております。

専門店販売事業においては、取引条件や不採算取引の見直しを徹底して遂行し、デリバリー、収益面の改善に努めております。

また、従来の商慣習であった展示会ベースから受注リードタイムを短くし、リアルシーズン化を図ることで受注精度向上、店頭消化促進に繋がり、コロナ後の新たなアパレル卸として新規・新販路開拓に取り組んでおります。

しかしこのような中、各販路とも取引先の整理の影響が大きく、当事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は5億73百万円（前年同期比47.1%減）となり、利益面では、粗利益率は概ね計画水準であったものの、売上高の減少が影響して、営業損益は1億89百万円の損失（前年同期は1億64百万円の損失）となりました。

#### <小売事業>

卸売事業と同様に、小売店頭の売上が厳しい中、立地別、店舗別の効率改善に取り組み、店舗のスクラップアンドビルドを行いました。お客様本位の魅力ある品揃えの強化、販売促進策の打ち出しに努め、新規お客様の獲得に努め、損益改善に注力してまいりました。本部の強力な指導のもと、経費の効率的運用を行い、売上原価を大きく改善させました。

その結果、当事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は6億43百万円（前年同期比9.6%減）となり、営業損益は42百万円の利益（前年同期は13百万円の損失）となりました。

直営店数につきましては、当第2四半期連結累計期間中に、新規出店はなく、不採算店2店を退店し、同期期末の運営店舗数は当社グループ合計で32店となりました。

#### <福祉事業>

当社グループの社会福祉への取り組みとして、障害者総合支援法に基づく「障害者福祉サービス事業」と農地法に基づく農業委員会の認可を受けた「野菜の生産及び販売事業」を両立させる事業を行う会社として2012年にラピーヌ夢ファーム株式会社を設立し事業を行っております。事業規模としては、連結売上高に占める割合は小さいものの、水耕栽培に加えて土耕栽培にも注力し、採算性改善に努めております。

当事業の当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高5百万円（前年同期比17.1%減）となり、営業損益は20百万円の損失（前年同期は15百万円の損失）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況

#### （資産）

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて3億74百万円減少し、36億50百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて4億4百万円減少し、21億5百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少3億74百万円、受取手形、売掛金及び契約資産の減少40百万円などがあったことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて29百万円増加し、15億44百万円となりました。これは主に、差入保証金の減少10百万円があった反面、投資有価証券の増加36百万円などがあったことによります。

#### （負債）

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて2億39百万円減少し、26億29百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて2億31百万円減少し、15億97百万円となりました。これは主に、短期借入金の減少69百万円、未払金の減少61百万円、支払手形及び買掛金の減少42百万円などがあったことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて8百万円減少し、10億31百万円となりました。これは主に、資産除去債務の減少8百万円などがあったことによります。

#### （純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1億35百万円減少し、10億20百万円となりました。これは主に、利益剰余金の減少1億54百万円などがあったことによります。

### ②キャッシュ・フローの状況

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失が1億49百万円となり、仕入債務の減少44百万円、未払消費税等の減少38百万円などにより、3億8百万円の支出（前年同期は1億98百万円の収入）となりました。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、差入保証金の減少7百万円などにより、4百万円の収入（前年同期は7百万円の収入）となりました。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の返済69百万円などにより、70百万円の支出（前年同期は1億58百万円の収入）となりました。

この結果、現金及び現金同等物の当四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べて3億74百万円減少して、17億13百万円となりました。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年2月期の通期の業績予想につきましては、2023年7月13日に公表しました業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,088,134	1,713,578
受取手形、売掛金及び契約資産	246,466	206,063
商品及び製品	136,578	139,647
仕掛品	4,842	1,707
原材料及び貯蔵品	6,652	2,799
その他	27,991	42,711
貸倒引当金	△1,118	△1,094
流動資産合計	2,509,547	2,105,414
固定資産		
有形固定資産		
土地	941,058	941,058
有形固定資産合計	941,058	941,058
投資その他の資産		
投資有価証券	316,888	353,233
差入保証金	205,403	195,343
退職給付に係る資産	47,467	51,222
その他	10,139	9,827
貸倒引当金	△5,995	△5,995
投資その他の資産合計	573,904	603,632
固定資産合計	1,514,962	1,544,690
資産合計	4,024,509	3,650,104

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	188,115	145,667
電子記録債務	12,344	9,956
短期借入金	1,070,356	1,000,358
未払金	409,604	347,964
未払費用	45,380	46,587
未払法人税等	14,129	9,510
契約負債	22,418	8,281
資産除去債務	—	5,740
その他	66,636	23,589
流動負債合計	1,828,985	1,597,656
固定負債		
長期借入金	730,000	730,000
繰延税金負債	34,078	35,395
資産除去債務	164,294	156,031
長期預り保証金	4,208	3,708
訴訟損失引当金	100,000	100,000
その他	7,298	6,682
固定負債合計	1,039,880	1,031,817
負債合計	2,868,866	2,629,473
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	849,263	849,263
利益剰余金	316,410	162,185
自己株式	△246,134	△246,154
株主資本合計	949,540	795,294
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	137,310	168,930
退職給付に係る調整累計額	62,766	56,404
その他の包括利益累計額合計	200,076	225,335
新株予約権	6,027	—
純資産合計	1,155,643	1,020,630
負債純資産合計	4,024,509	3,650,104

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
売上高	1,801,800	1,221,832
売上原価	564,490	323,651
売上総利益	1,237,309	898,181
販売費及び一般管理費	1,430,956	1,065,178
営業損失(△)	△193,647	△166,997
営業外収益		
受取利息	26	2
受取配当金	4,891	5,291
助成金収入	488,665	13,864
その他	5,835	4,875
営業外収益合計	499,418	24,033
営業外費用		
支払利息	7,848	9,467
その他	846	2,901
営業外費用合計	8,694	12,368
経常利益又は経常損失(△)	297,076	△155,332
特別利益		
新株予約権戻入益	—	6,027
特別利益合計	—	6,027
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	297,076	△149,305
法人税、住民税及び事業税	4,982	4,920
法人税等合計	4,982	4,920
四半期純利益又は四半期純損失(△)	292,093	△154,225
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	292,093	△154,225



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	292,093	△154,225
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,020	31,620
退職給付に係る調整額	9,551	△6,361
その他の包括利益合計	18,571	25,258
四半期包括利益	310,665	△128,966
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	310,665	△128,966
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前 四半期純損失(△)	297,076	△149,305
減価償却費	25	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△76	△24
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△15,300	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	6,668	△13,332
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△23,368	—
受取利息及び受取配当金	△4,917	△5,293
支払利息	7,848	9,467
助成金収入	△488,665	△13,864
生命保険配当金	△3,150	—
売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)	45,032	40,402
棚卸資産の増減額(△は増加)	△25,381	3,919
仕入債務の増減額(△は減少)	△45,173	△44,835
契約負債の増減額(△は減少)	38,779	△14,136
未払消費税等の増減額(△は減少)	△7,629	△38,719
その他	△61,981	△84,295
小計	△280,215	△310,017
利息及び配当金の受取額	4,917	5,293
利息の支払額	△7,887	△8,150
助成金の受取額	488,665	13,864
生命保険配当金の受取額	3,150	—
法人税等の支払額	△9,845	△9,539
営業活動によるキャッシュ・フロー	198,785	△308,549
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
資産除去債務の履行による支出	△15,195	△2,533
投資有価証券の取得による支出	△158	△191
差入保証金の増減額(△は増加)	22,823	7,095
その他	525	343
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,995	4,712
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	160,000	—
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	△69,997
自己株式の取得による支出	△22	△19
配当金の支払額	△327	—
その他	△1,138	△700
財務活動によるキャッシュ・フロー	158,511	△70,717
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	365,292	△374,555
現金及び現金同等物の期首残高	1,560,226	2,088,134
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,925,519	1,713,578

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

## (継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、第71期（2019年2月期）から第75期（2023年2月期）連結会計年度において、営業損失を計上しておりました。当第2四半期連結累計期間においても営業損失を計上、通期の業績予想でも営業損失を見込んでおり、営業活動によるキャッシュ・フローの改善は見込まれておりません。

また、取引金融機関からは借入金元本の返済猶予を受けており、継続して借入金弁済条件の変更交渉を行っております。

これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消すべく、以下の対応策を実行に移しております。

## ①卸売・小売事業については、

- ・製品の品質は維持向上を図りながら、パターン・縫製仕様の合理化を進め、よりお買い求めやすい販売価格で、売れ筋のトレンドを押さえた新作デザインを展開し、幅広いお客様層へ訴求できる魅力ある新商品の提供に努めていきます。
- ・百貨店、直営店売場など店頭VP（ビジュアルプレゼンテーション）は、顧客向けだけでなく、ラピーヌ商品の未購買消費者に向けてのアピールを強化し、新顧客の獲得、増大を図っております。
- ・製造、仕入額のコントロールとジャストインタイムの納期コントロールによる在庫リスクの低減に努めております。
- ・製造原価の低減による適正粗利確保の取り組みを推し進めるとともに、引き続き固定経費の徹底的削減を継続して、売上高の維持拡大と安定的な営業利益を確保できる体制を整えてまいります。

## ②ラピーヌ夢ファーム株式会社の福祉事業については、

葉もの野菜の水耕栽培、土耕栽培野菜の選定と生産性向上を進めるとともに、施設利用者の作業効率アップに資する教育訓練に努め、営業利益の創出を実現できる体制を整えてまいります。

## ③資金の確保については、

製造原価の低減、販売費及び一般管理費削減の継続的取り組み、取引金融機関への借入金元本返済猶予の依頼、政府による緊急経済対策に基づく各種税金及び社会保険料の納付猶予制度などの利用により、当第2四半期連結会計期間末における現金及び預金は17億13百万円と、当面の事業継続に必要な資金を確保しております。今後も同様の取り組みを継続するとともに、取引金融機関との良好な関係を維持しつつ、継続的に支援いただくための協議を行ってまいります。

以上の対応策の実施により、事業面及び財務面での安定化を図り、当該状況の解消、改善に努めてまいります。

しかしながら、これらの対策は未だ実施途上であり、今後の営業損益及び財務面に及ぼす影響の程度や期間について不確実性があることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、当四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を、四半期連結財務諸表に反映しておりません。

## (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	卸売事業	小売事業	福祉事業	計		
売上高						
顧客との契約から 生じる収益	1,083,868	711,475	6,456	1,801,800	—	1,801,800
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,083,868	711,475	6,456	1,801,800	—	1,801,800
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,083,868	711,475	6,456	1,801,800	—	1,801,800
セグメント損失(△)	△164,699	△13,304	△15,643	△193,647	—	△193,647

(注) セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	卸売事業	小売事業	福祉事業	計		
売上高						
顧客との契約から 生じる収益	573,219	643,259	5,353	1,221,832	—	1,221,832
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	573,219	643,259	5,353	1,221,832	—	1,221,832
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	573,219	643,259	5,353	1,221,832	—	1,221,832
セグメント利益又は損失(△)	△189,495	42,845	△20,347	△166,997	—	△166,997

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。